

「助けてー」魚たちのために

朝市や産地直送の魚市が不漁のため、販売しない日が何回かありました。そこで、原因は何か調査をすることにしました。

小女子(こうなひ)

春を告げる魚として知られる小女子は、2〜3月にかけて漁が盛んに行われるのですが、今年も4年連続で禁漁となつてしまいました。小女子ちりめんは、ごはんのせて食べるとたいへんおいしいので残念です。

小女子は冷たい海に生息し、水温15度以上になる6〜11月頃まで砂の中で夏眠する珍しい魚です。しかし、今年も海水温が高いので、ずっと夏眠したままで、小女子が成長せずに弱って死んでしまったのかもしれない。

養殖カキ

カキ養殖の産地の鳥羽市で、カキが大量死しました。昨年と比べて、倍以上獲れない業者もありました。ノリやワカメなどの海藻も不漁で、今シーズンのノリは、46年ぶりの記録的な不漁です。

原因は、やはり海水温が高いことにありましたが、7月は雨の影響で水温が低かったものの、その後には上昇しました。気象庁のデータで調べたところ、海水温は、昨年より約1度高いですが、カキ養殖所近くの海岸へ行ったら、例年以上に、カキの殻がたくさんありました。詳しくみてみると、カキの殻が入った状態の殻や小さいカキの殻が多数ありました。おそらく死んだカキが流れ着いたと思います。そこで、他の海岸についても調べてみることにしました。

伊勢えび

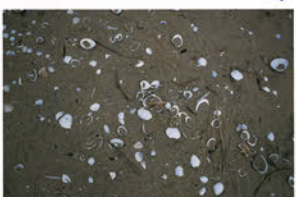
紀伊半島および志摩半島の最東端に位置する鳥羽市国崎町は、伊勢えびやアワビの産地です。そこで調査をしました。

夫婦船で操業している漁師に、令和元年の漁獲量はどうかとたずねたところ、「今年は、海水温が高かったので、ほとんど魚が獲れない。木曾三川からの冷たい水がもつと流れてきてくれたら、いいのにな」との話でした。

国崎町の海岸へ行くと、伊勢えびの殻がたくさんありました。これも死んでしまった伊勢えびが流れてきたのかもしれない。



津市白塚町の海岸(バカ貝)が産地ですが、そこにもたくさん死んだ殻がありました。



発行 なひがんばる隊

石川県かほく市の海岸 外国の空き缶などのゴミがたくさんあり驚きました。ゴミの文字から考えると、おそらく中国や韓国などから流れてきたのでしょうか。



調査結果

まずは、海岸を見ることで、その産物が分かることが分かりました。このように海岸を調べると、より詳しく産地が分かるので、他の海へ行ったら、海岸に着目してみたいと思いました。次に、海岸を調査する中で、どの海にもたくさんゴミがあつて残念でした。そう考えると、どの海もゴミが漂流して残念です。その中で魚が泳いでいるので、魚もエサを見つけているのはたいへんだろうと思いましたが、そこで、海岸にあったゴミを調べて、何が海を汚す原因か調べてみることにしました。

海岸にあったゴミ量ランキング

- 1、プラスチック包装
- 2、プラスチック容器
- 3、ペットボトル
- 4、空き缶
- 5、立竹木
- 6、ビニールひも、ロープ
- 7、発泡スチロールの破片

考察

ゴミから考えて、海を汚す原因は、ポイ捨てだと思えます。ゴミの多くは、小さくて軽いアメなどのプラスチックなどの包装でした。小さいゴミだからポイ捨てをしてしまう人が多いのだでしょう。石川県の海岸の例からすると、ゴミは外国からも流れてくるので、ポイ捨てしない取り組みは、世界中のみんなで行う必要があると思います。もし自分が魚だったら、大きなゴミは避けることができないけど、小さなゴミは飲み込んでしまはずです。僕たちも、魚を食べる時、小さな骨は気が付かずに飲み込んでしまうのと同じことだと思えます。

ゴミの中で、一番やっかいなのがビニールひもと発泡スチロールの破片などの小さなゴミです。この破片がからみつくからです。ビニールひもを触ると、細かい繊維がとれるので、その繊維を魚が飲み込んでしまう危険があります。今年のニュースで、ジュゴンの赤ちゃんが胃にたまったプラスチックが原因で死んだことがありました。そうすると、三重県でも海藻からみついたビニールひもや発泡スチロールの破片が見つかったりするので、そのゴミを飲み込んだ魚や貝が病気になる。漁獲量の減少になってくるのかもしれない。漁獲量が減ってしまえば、魚を食べることができなくなってしまうと思います。どうにかして海を守らなければならぬと思います。

海藻から見つかったマイクロ海洋プラスチック(写真の貝:しじみ)



近海で獲れる魚に海洋プラスチックがあるか調査をする

調査方法: 魚は直売所で購入または釣りの魚の内臓から調べる

産地	購入先/釣り場	魚種類	海洋プラスチック調査(主な板マス目: 1cm x 1cm)
四日市市	富洲原魚類共同販売所	コチ、舌平目	無し
鈴鹿市	鈴鹿市漁業協同組合直販所	チダイ、ヒラメ	チダイに細かい繊維2本有り
鳥羽市	安楽島朝市	ツバス	無し
志摩市	英虞湾魚釣り	アブコ、小鯖、カサゴ、のどくろ	無し
和歌山県	津市北山水産	ピンチョウマグロ	無し

結果

小さい魚(チダイ)の内臓から、細かい繊維の海洋プラスチックを発見。

考察

小さい魚は、子供と同じく成長期で、海洋プラスチックごみを食べると、免疫がないので、死んでしまうと思います。そして、海に海洋プラスチックごみが増えてきたので、そのごみを食べる小さな魚も増え、漁獲量が減ってきているのではないかと考えます。

海づくり

伊勢志摩のきれいな海に、あるアマモの種を取り、中京工業地帯の四日市市の海にアマモを育てるプロジェクトに参加。

※アマモは、魚の産卵や生育の場であるとともに、海中の窒素やリンなどの栄養を吸収して水を浄化するなどの生活を支える役割を果たしている。

海岸清掃



春に鳥羽市のアマモを刈り取り、その葉っぱの中から種を取り出す。この種から四日市市の海にアマモを再生させる。アマモを再生させる方法は次の3つの方法で行う。(場所: 四日市市富双緑地公園内 白浜青松の浜)

【アマモ再生方法】

1、園芸用の土と海砂を7:3の割合で混ぜて、その土をプランターに入れる。そこへ種をまいて苗を作る。その苗は、3月末に海へ植える。



2、綿ガーゼに、園芸用の土と海砂を7:3の割合で混ぜた土に、20〜30粒の種を入れて団子状に包む。その団子を網に結び、網ごと海底へ沈めて、海中で育てる。



3、天然繊維の不織布マットに、アイスクリームなどの原材料で、粘着があるカルボキシメチルセルローズ溶液と種を混ぜて、マットの上に種をのせる。マットを半分に折って止める。マットを海底へ沈めて、海中で育てる。



▼海産物の不漁が続くこと、地球温暖化が僕たちの地域まで迫ってきて悪影響が出始めていることが分かります。他人ごとではないと思います。アマモは、海の木だと思われているので、これからは山の植樹だけではなく、アマモを増やす活動もしていきたいです。

▼身近に使っている物を、軽い気持ちでポイ捨てをする、魚たちが死に至る大きな影響になるので、ポイ捨ては絶対にしないようにします。

▼今までのエコ活動で、森づくり、水づくりの重要なことが分かります。今年も海づくりも重要であることが分かりました。どの活動も共通点があるので、これからも、エコ活動を通して、地球が暑くならないようにしていきたいです。

▼今年のエコ活動は、日常生活の中で、エコになることはいかに考えながら取り組みました。例えば、友達と一緒に使えるのは誰かというように競争をしたりしました。

▼今年の反省点は、エコ活動中、自然のものを遊び道具にして、つい遊びに夢中になってしまったことです。

▼来年は、使わなくなったものをすぐに捨てずに何か使い道はないかよく考え、ゴミを出さない活動や新たにエコになることを見つけたかったです。

ここもエコクラブ壁新聞(2019年度) (横断紙サイズ用)

クラブ所在地: 都道府県 津 市区町村 三重

クラブ名: なひがんばる隊

(全国事務局使用欄: 記入しないでください) (2019年度 応募作品) 口結草クラブの壁紙を参考